

初 荷 初 市 風 景

金沢問屋センター繊維同業会（八田隆年会長）吉例の初市は、1月9、10日の両日各社会場で行われ、好天のお陰で昨年比べてお客様の出足も上々だったようである。

呉服については、昨年と同様、フォーマル商品に人気があるが、新しい感覚の趣味の小紋が一部出始めている。

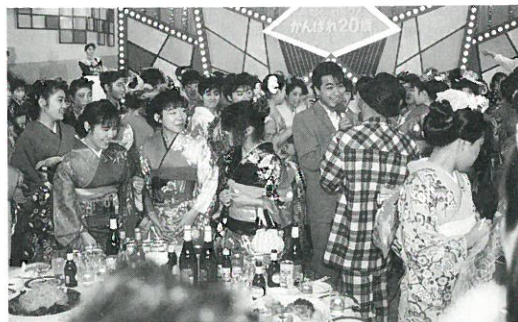
消費者の着こなしがうまくなってきた為、これまで商品の二極化が見られていたが、高くても欲しいものは買い、欲しくないものは安くても買わないというライフスタイルが定着してきたようである。



きもので乾杯!! おめでとうフェスティバル

1月15日、金沢ニューグランドホテルで「きもので乾杯!! おめでとうフェスティバル」(主催・石川県和装振興会)が行われ、新成人約400名が参加した。

タレントのABブラザーズを迎えてのトークショーやゲームの他、東京ディズニーランド1泊2日空の旅の当たる抽選会もあり、盛りだくさんの内容であった。



金問屋センターニュース

1990.1
No. 46

協同組合 金沢問屋センター 金沢市問屋町2丁目61番地 ☎37-8585 ●発行者/小川甚次郎



VAN会社設立に向けて

(協)金沢問屋センター

理事長 小川甚次郎

明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え謹んでお祝い申し上げます。

さて、昨年一年を振り返ってみますと、今迄に経験したことの無い様な一年ではなかったかと思えます。まず一月に昭和天皇が崩御され、年号も平成と変わり新しい年号でスタートし、四月にはわが国ではじめての消費税である消費税がPR不足のまま実施され、七月には参議院与野党逆転という、政界の大変動、又、二度の内閣交代、海外ではベルリンの壁崩壊に象徴される東欧の民主化のあらし等、内外を問わず、波乱の一年であったと思えます。他方、経済面においては、岩戸景気、いざなぎ景気につぐ好景気にささえられ、消費も大幅に拡大し、内需関連にたずさわる我々流通業にとっても各社好調に推移した一年でありました。

90年代の始まる今年の景気は、昨年同様の好況が予想されておりますが、金利及び物価の上昇気配等、楽観できない要因もあり、我々はより積極的な営業展開をはかり、流通業の役割が大きく変化している時代に対処して

行かねばなりません。

近年、少量多品種化、多様個性化等により、卸売業も機能や体質の強化がより強く求められております。具体的には、消費動向を的確に把握、蓄積すると同時にその活用や、ユーザーに対する有益な情報の提供が、肝要と思います。これには物流、事務の合理化を図り強力な情報ネットワークの構築が必要不可欠となっております。

組合では昭和六十一年度より、情報化問題に取り組み、その実現化に向けて情報化特別委員会を設置し、鋭意検討を進めて来ましたが、本年の三月をめどにVANの新会社を作り平成二年度より一部取引先との実験稼働を行い、時代の要請にこたえるつもりであります。二月中には新会社設立の説明会を開催し、組合員の皆様へ出資のご協力を願いますので、絶大なるご支援をお願い申し上げます。

終りにあたり組合員各位の益々のご繁栄を祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

'90 新年互礼会

恒例、協同組合金沢問屋センターの新年互例会は、1月4日午後2時より金沢流通会館大ホールパルスにおいて来賓、組合員 260 名が参加して開かれた。

国歌斉唱に引き続き、小川理事長から「今年も好況が予想されるが、より積極的な営業展開をはかり、大きな変化の時代に対応して行かねばならない」と挨拶があった。

次いで中西県知事、山出市助役、奥田、森両衆議院議員、沓掛参議院議員、宮商工会議所会頭より祝辞を賜り、末岡市議会議員の発声の下に乾杯を行い祝宴に移った。美妓のお酌で話がはずみ、宴たけなわの処、千田市議会議員の音頭で万歳三唱し、本年も盛況の内に終了した。



年男大いに語る



地域創りが大切

(株)永井商店
会長 永井 栄一

平成2年の新年明けましてお目出度うございます。新春にあたり皆様に謹んでご挨拶申し上げます。本年は1990年にあたりいよいよ20世紀最後の10年間に突入する事になりました。此れからの10年間というのは近年の社会発展のスピードから考えて、恐らく私等の想像を超える大きな変化発展を遂げる事でありましょう。

それではどの様な変化が行なわれるかという事ですが、最近の社会変化の特徴からみまして高度情報化社会への移行という事が考えられます。世界中が情報のネットワークで結ばれるようになり、経済が全て国際的な規模で進行していく事になります。

他方、日本という枠でみますと、高度情報化社会の成熟は中央と地方の一体化をもたらせます。北陸の事で考えて見ますと、かつて北陸自動車道が完成し中央と北陸とが非常に近くなりました。数年後に北陸新幹線が完成する訳ですがこうなれば益々中央と地方が直結されます。

ところが情報化社会が高度化してきますと、これまでとは比較にならないほど中央と地方の距離が近づきむしろ中央と地方が一体化する現象が行なわれる事になります。つまり中央の資本が都会と同じような程度で地方へ進出して来る事になります。そうなりますと私も北陸の業者は中央の資本と益々熾烈に競合せざるを得ない状況に追い込まれる事になりますが、競合しながらどのように生き残っていくかが今後の大きな

課題です。つまり私共地方の中小の業者がどうすれば中央の巨大な資本の波と対抗できるのかという課題こそが、21世紀に向けた私達の最も大きなテーマであろうと思います。

私は二つの点が非常に重要な事柄であると考えています。

一つは私達が個別の小さな業者としてではなく、金沢問屋団地という纏りの中でどの様に協業化し、近代化を押し進めていくかという事です。センターで情報バンクを持ち経営処理システムを導入して行かなければならないと思います。情報化特別委員会では3月を目標にVAN会社設立の準備が進められております。組合員は1社でも多く参加される事を念願致します。

第二は私たち自身が地域づくりを創造していかなければならないという事です。現在、日本全国どの都市へ行ってもセブンイレブンが有ったりマクドナルドが有ったりで同じ景色です。つまり地方都市の「小都会化」です。然し地方が生き残る為には中央とは異なる「地域創り」が行なわれなければならないと思います。地域の伝統的な産業を残していく事もその1つです。優秀な専門店を育成していく事も結局は地域創りの問題だと思えます。

私達は地域と密着し地域と共に地域を創り出して行く此の視点が今後必要なのではないでしょうか。



21世紀に向っての限りなき成長

(株)丸菱
社長 米浜 栄一

皆様新年あけましておめでとうございます。今年1990年であり、21世紀まで残り10年となりました。この10年間でどう成長し、発展しつづけていくか個人にとっても企業にとっても大きく格差が出て来る年となるでしょう。その意味では、21世紀に向ってのスタートの年です。

年男の私は1月2日で満60歳になりました。(株)丸菱も満40歳になります。古来還暦とは、「生まれた年の干支が61年目にもどってくることから、満60歳になって目出たいとされている年齢」だそうです。現在では60歳という年齢はまだまだ「鼻たれ小僧」

であります。

21世紀に向けて、あと10年間限りなき成長をし続けていける様、初心に戻り社業に専念する覚悟です。

故に、私の還暦の祝宴は、10年延長し西暦2000年の1月に実施させて頂きたく思います。その時こそ背広からパンツ、靴下まですべて真っ赤で祝杯を上げたい



(協)金沢問屋センターの発展を考えて

中西産業(株)
中西セメント商事(株)

社長 中西 藤夫

激動の平成元年が過ぎ希望に輝やく平成2年に入り組合員皆様方に心より新年のお慶びを申し上げます。

私に取りまして迎えました本年は丁度60歳という事になり世間でいわれる還暦に入りました。

仕事の方も中西産業(株)の方は板硝子の工事卸を始めまして、途中サッシ、シャッター住設機器部門を取り入れまして既に45年、会社を設立して23年目に入り、小松問屋町店と併せて社員も20数名を数える迄になりました。又、旭硝子(株)、吉田工業(株)、サンキョーアルミニウム(株)等の特約店もさせて戴き、現在は業界の為にもなればという事で、石川県板硝子商業協同組合の理事長として活躍させて戴いております。

又、中西セメント商事(株)の方は、戦後の日本の発展の基礎資材としてセメント、セメント関連のパイル、スレート、セメント二次製品等々のセメント関連の卸、工事関係を手掛け、途中下水道関係資材の卸部門を追加して今日に至り、会社設立も昭和44年9月に個人から法人に改組して、丁度創立20年の節目で人生の成人に達しました。又三菱鉱業セメント(株)、浅野スレート



今年を如何に生きるか

(株)丸一商店

社長 黒梅 吉英

今年の始めにあたり、特に思うことは昨年は激しい変化の1年であったように思われる。昭和天皇の崩御を始め、多くの指導層の変化、ベルリンの壁の崩壊に代表される社会主義の動き、日米の経済摩擦、ソ連の変化など数えればきりがない程の事件が起っている。戦後45年を経て、近代200年の歴史の視点より見れば、コンドラチェフの波と呼ばれる「大波動」の存在を改めて認識をせざるをえない。この長期波動は戦争、通貨、技術革新、自然の制約と強く結びついているといわれている。今日、我々はこの第四の波を越え、今、

と思っております。

その日の為、問屋団地繁栄の為に頑張って名実共に、皆様と喜びを分かち合いたいと願っております。

皆様21世紀に向かって限りなき成長をともにしようではありませんか!

(株)、大同コンクリート工業(株)等々の特約店にも起用されて来ました。そして小松問屋町店を併せ社員も10名位になりました。

今静かに還暦に至り事業についての関係の皆様、特に(協)金沢問屋センターの役職員、組合員の方々に今日迄の御協力御援助に対し感謝申し上げたいと存じます。

さて本年1月4日に当協組で開催された新年互礼会に出席させて戴き、理事長を始め来賓の諸先生方より今年の経済界の予想所感等を拝聴致しまして、本年の指針の参考にも致した次第であります。

又、新年互礼会に先立っての間屋神社での初参りも特に今年1年の決意を固める為にもなったと考え、意義深かったと思えます。

最後に昨年初めと違って今年は国に取っても何となく明るい空気が年が明けたのではないかと期待して、1年間頑張りたいと考えます。そしてそのことが、ひいては(協)金沢問屋センターの発展にもつながるものと考えます。

何卒宜敷く御願ひ申し上げたいと存じます。

第五の波動の上昇期にいる。このような現象の背後で情報革命、資源、材料革命、食糧革命、バイオテクノロジー、組織革命などに基づく、生活革命、文化革命が訪れつつあるといわれている。

このような現実世界の中で、今年はどう生きるかを考えてみたい。自分の考えとしては、経済活動などは無限に変化していくのが常であると思っている。しかし変化をしないものもある。それは人間であり、その心である。昔からその動きは全く変化がなく同じようなことをくりかえしている。問題はこの自然界の流れの

中で、どう生きるかである。厳しい変化や流れに後からついていくだけでは、企業もここに働く自分も忙しいのみで安心がない。いち早くこの流れをつかみ、自然の流れを理解して、自分の環境を創造していくことが大切であると思っている。昔から歴史が人を生み、人が歴史をつくるという言葉がある。そこで今年はず第一に天地自然の動きが人間界に現われることを深く察知し、自らもその一端を担っていくことが必要である。そして自分はどの分野に持ち場を見出すことができるかを考える。つまり生かされている自分に感



感動・感激の心を

尚和印刷(株)

社長 松村 克雄

「愛燦燦」で人生って不思議なものですねと歌い、「川の流れるように」この世を去っていった美空ひばりを最後に1980年代の幕は降ろされ、1990年の夜明けを迎えた。

新年を心からお慶び申し上げます。

昨年に引続き日本経済は好調に推移しているが、この90年代は世界経済はスピードと変化に富んでおり、多様化、自由化の波が激しく、日本においても我々中小企業間の格差は広がり、益々厳しさが深まっていくような気がする昨今であります。堅実に地道に一步一步前進ではないでしょうか。

しかしながら何んと平和で豊かな国、日本でありましょうか。我が街「金沢」美しい森の都といわれて久しいが、今一度考えてみましょう。新聞等でもよくいわれていますが、空缶、灰殻等々のゴミの多さ、道路上の汚なさにはうんざりの毎日、ほとんど一市民としてはずかしいかぎりです。クリーンデーとか一日清掃の日を設けるやら、あらゆる手段で街を美しくする運動を展開しているが、その時だけきれいになるが、もう次の日からは投げ捨てホイホイ、これで文化国家

謝し、天の働きに従って、おこがましくは助ける努力をしていくことである。

次にそれを成す人造りの必要性を感じる。まず自分自身を含めて、人間の成長を願い、そして周囲の人達とともに切磋琢磨してより良い社会づくりに貢献をしたい。第三にはヒト、モノ、カネを活かし、合理的で安全確実な運用を行う組織づくりを考えたいと思っている。それが仕事をさせてもらうもの務めと思っている。今年も更に感謝報恩の心で生活出来ますようにと願っている。

といえるでしょうか。

日本人のマナーの悪さ、道徳の欠如は今に始まったことではないが、何んとかならないかと思うのは自分一人ではあるまいと思うが。まず自分から、家族から、職場から拾うことも大切だが道路へ物を投げ捨てない運動展開が必要です。この問屋センターから始めたいものです。

昨年末バルセロナ国際女子駅伝をテレビで観戦し、松野選手の快走、そして郷土の早川選手の力走と、最後のスタジアムで惜しくも抜かれて2位になった日本選手の活躍を見て、久しぶりに「感動」という事を味わったが、仕事に、スポーツに、遊びにこの感動・感激を覚えることを忘れてはいけません。街の美しさも、心の美しさも全て幸福の源泉であります。

この世に生を受けて今年4回目の年男となった今、この「感動する心」をいつまでも持ち続け、健康という二文字を心にきざみ、実りある平成2年、そして1990年代を生き抜くことを念願するものであります。

「鳥が鳴くとて 花が咲くとて 裏の畑は草ぼうぼう」



今年も走り続けたい

(株)マツモト

常務 岡本 輝明

今年自分の干支の年と聞いて改めてこの干支になんとか愛着を感じている。他の干支に比べて「馬」はいかに素適でやさしく、又走る姿は力強く自分のイメージとピッタリな感じがする。

冗談はともかく48年間を振り返ってみて自分の人生

に悔いはなく、馬のように全力で走り続けてきたと思っております。

問屋団地におられる方々は出身校が商業系、又は経済系の人が多いように思います。その点私は金沢市立工業の機械科を卒業、その後関東の鉄鋼関係の工場に

10年間勤務、製造の仕事をしてきましたので、多少皆様とも色が変わっているのではないかと思います。

たまたま私とその鉄鋼会社に入社した時、新素材の商品を開発、実験段階を終え生産工程に移すべく準備をしている時でした。その為その商品に関し最初から否応なしに全ての作業を自分で手がけてやりながら、量産に移すべく設備や工程や工具の準備、改良と随分苦労もし、苦心もしました。

又、その当時工場管理において品質管理(Q.C)の盛んな時代でした。その後も価値技術(V.E)、無欠点運動(Z.D)といろいろな手法を勉強する機会に恵まれ、又それらの手法を使い、いかに合理化しコストダウンに結びつけるかも重要な仕事でした。そんな中から学んだことは次の3つのことです。

1. 物事を行なうには、なるべく単純に考えた方が良く、標準化していくこと。
2. まず現実を客観的に見ることに、自分の手で触ってみること。
3. アイデアを考える時は考えることと評価することは別にする。

これはV.Eの中でブレンストーミングという会議形式があり、その中で学んだものです。

その後縁があり現在の(株)マツモトに入社し、営業を担当しましたが技術屋根性が抜けきれません。市立工業の同級生にV.E.で学んだ

$$V(\text{価値}) = \frac{F(\text{機能})}{C(\text{コスト})}$$

「お客様は価値によって買って下さる」と話しをしたところ大笑いされ、「営業は自分を売ることだ」と教えられました。その後営業も板につき、59年に総務部に移りましたが、以前のお客様に今でも身上相談を受けたりすると、営業の仕事は素晴らしい仕事だったなとつくづく感じております。

総務部に移ってから私にはコンピューターとの出会いがありました。私と同期の人達の中には工業高校のせいもあり日立、富士通、NECなどに勤めておられる方々があります。そんな関係でいろいろな話の中から、原語でいうコボル、ベーシック等については年令も年令なのだから、それは専門家にまかせ、簡易言語である「表計算」のプログラムを使いなさいというアドバイスを受けました。メーカーのSEに表計算のプログラムを教えて欲しい旨申し込んだところ、「それは教える程のものでないので自分でやって下さい」とのこと、全然相手にもして貰えません。仕方がないのでマニュアル片手に3ヶ月間かかって給料計算ができるようになりました。でもこの期間は本当に苦労しました。

給料振込の前夜、データがバツサリ消えて目の前が真っ暗になり、手計算でしょうか、もう一度コンピ

ューターで最初からやり直そうかと思案にくれました。例えば手計算の場合は氏名はゴム印でいいのですが、コンピューターの場合は氏名の登録からしなければなりません。その当時、数字はなんとか打てる状態ですが漢字になるとまったく遅く、ゴム印の方がはるかに効率的でした。それでも気をとり直し、もう一度コンピューターで計算した時は東の空が明るくなっておりました。

でも3ヶ月目にはほぼ満足できる状態になり、現在銀行の土曜日休業にもめげず、20日締めめの25日給料振込をしています。

給料計算についてはもっと便利な市販のソフトもありますが、3ヶ月間の苦労が他の作業にも応用でき、振替伝票の発行、手形管理、支払い計算等自分の会社に合った使い方ができ合理化に役立つようになりました。

今ではかなりの会社で小切手、手形の額面をコンピューターで打ち出されていますが、当社では表計算のプログラムを使い、61年春より算用数字を漢用数字に変換して印刷させるようにしました。他の業界の様子はわかりませんが、その当時私共が受取る手形でコンピューターで印刷されてくるものは1社だけでした。これはチョッピリ自慢です。

そんなことで40歳の手習いもなんとか身についた形ですが、今から考えてみると工場に勤務した時の経験が随分役に立ったようです。コンピューターといっても単なる事務機械ですから、トラブルがあっても客観的に類推し繰り返しながらプログラムはなるべく単純に、使用目的にはいろいろなアイデアを出してコストダウンを考えてというふうな……。

最後にこれだけは良かったと思うのは、自分の仕事をよく理解していなかったことに気がついたことです。少し奇異な感じがするかもしれませんが、案外毎日の仕事をムードでやっている部分があり、その点機械は曖昧さを許してくれない為に、逆に機械に結論をせまられタジタジした場面も幾度かありました。

でもコンピューターとのつき合いもそろそろ終りにしたいと思います。徐々にコンピューターに興味を持つ女性も増えてきて、問い合わせの電話や質問も来ます。彼女達の努力に期待する毎日です。

我が干支のこの1年、新たなことへの挑戦をめざし、いつまでもいつまでも走り続けたいと思います。



平成二年度の景気予測

(株)北國銀行間屋町支店

支店長 三枝定男

みなさま、明けましてお目出度うございます。輝しい新春を迎え謹んでお祝いを申し上げますと共に、日頃のご愛顧に対し、心より厚くお礼申し上げます次第でございます。

さて、昨年は国内外共に政治・経済面で、大変な年であったと思います。国内にあっては昭和天皇の崩御に始まり、消費税の導入、三度に及ぶ政権の交替、国外にあっては六月の北京での天安門事件、東欧諸国での政治改革等々……。しかし、こうした激動の割には各国経済は大きな混乱を来すことなく力強い成長を続けたと思います。そして、この勢いは世界経済全体としては90年度へ持越されると思われま。さて、平成二年度の日本経済の見通しはと言う事ですが、各研究所の見方を要約してみますと、1986年11月に始まった景気の拡大は、4年目を迎え成熟段階に入り、成長スピードは、やや鈍化するものの内需を中心とした拡大基調は維持されると言うのが大方の見方であり、GNP成長率は、86年度が2.6%、87年度が5.2%、88年度が5.1%、89年度が4.5%、そして今年度は4%と、ややスローダウンか、と言うところでございます。

そこで、景気拡大の二大要素と言われる、物価の動向と個人消費という一面と設備投資の動向という点について述べたいと思います。

まず、物価動向と個人消費面ですが、大型の景気拡大が続く中で、労働需給逼迫や好調な企業収益状況からして、賃金コストの若干の上昇が懸念されるが、春闘賃上げ率も昨年並みの5%前半とみられ、又、円ドルレートも大きく円安に振れる可能性が極めて少ないこと、原油価格は安定的(1バレル=17~18ドル)に推移すると思われる事から賃金コスト以外の面での物価の先行きを取巻く環境に大きな不安はない。結果として、90年度の国内卸売物価の上昇率は前年比1%ぐらいと安定的な推移が予想される。一方、消費者物価については、賃金コストの上昇が主としてサービス価格を押し上げ、趨勢としてはジリ高傾向の動きをするものと思われるが、消費税導入2年目に入り、物価上昇率中税費税による押し上げ分が落ちる事もあり、消費者物価の上昇率は89年度の3%から、90年度は1.8%と低下が予想されます。従って、実質可処分所得の伸びが高まり個人消費は回復、やや上昇すると思われ

ます。次に、もう一つの景気拡大の牽引車たる設備投資についてですが、日銀の調査によりますと、89年度のGNPベースの設備投資は、製造業を中心として実質15%と高い伸びを示し3年連続の2桁増が見込まれ、しかも企業の好収益による自己資本の充実により、数次に亘る公定歩合引上げによる金利上昇の影響も今のところ小さく90年度については、製造業の生産能力増強投資は鈍化するものの、研究開発、新分野進出、合理化投資を中心に製造業部門全体の設備投資の伸びは12.9%(89年度19.3%)と予想されます。又、非製造業部門では、個人消費の拡大を反映し、消費関連業種の設備投資の伸びは比較的高いと予想され、電力を含めた非製造業部門では実質5.6%の伸びが予想され、その結果90年度全産業設備投資の伸びは8.2%程度と堅調な伸びが予想され、景気拡大の柱になると思われます。

以上により、90年度の国内景気は、設備投資が高い伸びを続ける上、個人消費が、物価の安定と所得の順調な増加を背景に上昇が見込まれることからして、内需主導型の着実な拡大が続くものと予測され、景気転換点は90年度には訪れないと思われま。

最後に組合員の皆様方の益々の御発展を心からお祈り申し上げますと共に、私ども金融機関も、金利の自由化、国際化が一層進展していく中で、経営環境としては大変厳しいものがありますが、皆様と共に進むという姿勢で、経営努力を重ね、少しでもお役に立つべく最大の努力をいたす所存ですので、本年もよろしく御支援賜りますようお願い申し上げます。

(参考)

	主要予測値		
	88年度 (実績)	89年度 (見込)	90年度 (予測)
実質経済成長率	5.1%	4.5%	4.0%
(内需寄与度)	6.9%	5.3%	4.3%
(外需寄与度)	△1.7%	△0.9%	△0.3%
消費支出	4.7%	2.5%	4.1%
住宅投資	7.0%	0.9%	△1.3%
設備投資	17.9%	15.0%	7.5%
円レート(円)	128.3	142.0	140.0
消費者物価	0.7%	3.0%	1.8%
国内卸売物価	△0.5%	2.7%	1.0%